

令和5年度 山口県立大学 感染管理認定教育課程

入学試験

筆記試験 専門科目

(問題用紙)

令和4年12月3日(土)

9:00～10:30

受験番号	
------	--

注意事項

- 1 問題用紙、解答用紙の受験番号欄に受験番号を記入してください。
- 2 問題用紙は表紙を含めて18枚です。解答用紙は2枚です。
- 3 問題用紙の余白は、自由にお使いください。
- 4 解答はすべて解答用紙の該当箇所に記入してください。該当箇所以外に書かれたものは、採点の対象になりません。
- 5 問題用紙は、解答用紙と共に試験終了後回収します。問題用紙を破いたり、取り除いたりしないでください。

【問題1】令和4年度診療報酬改定における感染対策向上加算に関する記述で誤っているものはどれか。

1. 感染対策向上加算は、感染防止対策加算から名称変更となり、感染対策向上加算1は390点から710点となった。
2. 感染対策向上加算1を算定する医療機関の施設基準として、感染対策向上加算2・3の医療機関と連携していることされている。
3. 感染対策向上加算3の施設基準として、感染対策向上加算1の医療機関が主催する新興感染症の発生等を想定した訓練に少なくとも年1回以上参加していることとされている。
4. 外来感染対策向上加算の施設基準として、感染防止に係る部門を設置していることとされており、この場合において、医療安全対策加算に係る医療安全管理部門を感染防止対策部門とすることはできない。

【問題2】感染症法について正しいものはどれか。

- a. クリミア・コンゴ出血熱は指定感染症である。
- b. 薬剤耐性緑膿菌感染症は、5類感染症の全数把握疾患に分類され、7日以内の届け出が義務付けられている。
- c. 水痘（初感染で24時間以上入院を必要とする場合）は、5類感染症の全数把握疾患に分類され、7日以内の届け出が義務付けられている。
- d. 新型コロナウイルス感染症は、新型インフルエンザ等感染症に分類されている。

1. a, b            2. a, d            3. b, c            4. c, d

【問題3】生体の免疫機構について正しいものはどれか。

- a. 物理的バリアとは、皮膚や粘膜からの微生物の侵入を防ぐ働きをいう。
- b. 微生物が宿主のバリアを突破すると、自然免疫が働き、そのあとを獲得免疫が受け継ぐ。
- c. インターフェロンは細胞性免疫の中心として重要な働きをする。
- d. 獲得免疫のうち液性免疫の中心はTリンパ球である。

1. a, b            2. a, d            3. b, c            4. c, d

【問題4】疫学用語とその説明について正しいものはどれか。

- a. 感度・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 疾病がある人のうち、検査で陽性と判断される割合
- b. 陽性的反応中率・・・・・・・・・・・・ 検査が陽性の人のうち、実際に疾病がある人の割合
- c. 陰性的反応中率・・・・・・・・・・・・ 疾病が無い人のうち、検査で陰性と判断される割合
- d. 特異度・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 検査が陰性の人のうち、実際に疾病が無い人の割合

- 1. a, b
- 2. a, d
- 3. b, c
- 4. c, d

【問題5】データの中心的傾向を示す言葉で、適切でないものはどれか。

- 1. 平均値
- 2. 標準偏差
- 3. 中央値
- 4. 最頻値

【問題6】感染症と経路別予防策と原因微生物の組み合わせで正しいものはどれか。

- a. レジオネラ症・・・・・・・・・・・・ 接触感染予防策・・・・・・・・・・ *Legionella pneumophila*
- b. 伝染性単核球症・・・・・・・・・・・・ 標準予防策・・・・・・・・・・・・ EBウイルス
- c. 結核・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 空気予防策・・・・・・・・・・・・ 結核菌
- d. 流行性耳下腺炎・・・・・・・・・・・・ 接触感染予防策・・・・・・・・・・・・ ムンプスウイルス

- 1. a, b
- 2. a, d
- 3. b, c
- 4. c, d

【問題7】予防接種法に関する記述について正しいものはどれか。

- 1. インフルエンザワクチンを接種後、水痘ワクチンを接種する場合には7日以上間隔をあける必要がある。
- 2. MR（麻しん、風しん混合）ワクチンを接種した後、水痘ワクチンを接種する場合は27日以上間隔をあける必要がある。
- 3. B型肝炎ワクチンは4週間の間隔をあけて、3回接種する。
- 4. 2016年以降、B型肝炎ワクチンは1歳以上の幼児を対象に定期接種となった。

【問題 8】「医療現場における隔離予防策のための CDC ガイドライン 2007」の標準予防策における個人防護具の使用について、誤っているものはどれか。

- a. 高リスク患者のユニット（ICU, NICU, 造血幹細胞移植ユニットなど）に入室する際は、ルーチンにガウンを装着する。
- b. 複数の個人防護具を使用する場合、手袋は最後に着け、最初に外す。
- c. 2人以上の患者のケアに同じ手袋を装着してはならない。
- d. 眼鏡を装着している人は、ゴーグルを装着する必要はない。

1. a, b

2. a, d

3. b, c

4. c, d

【問題 9】感染経路別予防策として正しいものはどれか。

- 1. 空気感染予防策では、感染患者とその家族及び医療行為を行うスタッフ全員がN95マスクを着用しなければならない。
- 2. 感染経路別予防策とは感染症の診断がついた時点で、標準予防策にかえて実施する対策である。
- 3. 接触感染予防策を実施している病室では、入室の際に個人防護具を装着し、病室を出た後に廃棄する。
- 4. ウイルス感染のある免疫不全患者については、他者に伝播する可能性のあるウイルス性病原体の排出が長引くため、感染経路別予防策の期間を延長する。

【問題 10】空気感染予防策について正しいものはどれか。

- 1. 空気感染隔離室（AIIR）からの空気を屋外へ直接排気することが不可能な場合、フィルターを通さずに空調システムまたは周辺に戻してよい。
- 2. 空気感染隔離室（AIIR）は陰圧管理されているため、常時ドアを閉めておく必要はない。
- 3. 空気感染対策が必要な患者を収容している部屋は、1時間ごとに少なくとも6回（既存の施設）、または12回（新築または改装）の空気の交換を行うこと。
- 4. 空気感染隔離室（AIIR）が空気感染予防策の対象となる患者のために利用されている時は、差圧検知装置で毎日監視されていれば、視覚的なモニター（スモークチューブやフラッターストリップなど）は必要ない。

【問題 11】「医療現場における感染性病原体の伝播予防 CDC ガイドライン 2007」に記載されている防護環境についての内容で誤っているものはどれか。

1. 1時間につき12回以上換気を実施する。
2. 防護環境を必要とする患者は、診断のための処置またはその他の活動のために室外にいる時間を最小限にする。
3. 病室内空気圧を廊下に対して陰圧にする。
4. 防護環境区域には、ドライフラワーや生花を禁止する。

【問題 12】「血管内留置カテーテル関連感染予防のための CDC ガイドライン 2011」の記述で誤っているものはどれか。

1. カテーテル挿入部の被覆では、滅菌ガーゼより滅菌フィルムドレッシングのほうが血流感染の発生率を低減できる。
2. 成人患者では、中心静脈カテーテルのアクセス部位として大腿静脈は避ける。
3. カテーテル関連血流感染防止のために、中心静脈カテーテルを留置後、予防的な抗菌薬投与は行わない。
4. 末梢カテーテルは、ルーチンに交換する必要はない。

【問題 13】「カテーテル関連尿路感染の予防のための CDC ガイドライン 2009」の推奨事項に関する説明で誤っているものはどれか。

1. 患者ごとに別々の清潔な採尿容器を用いて、定期的に採尿バッグを空にする。
2. 尿道カテーテルを定期的に交換する必要はない。
3. 患者に対して尿路カテーテルを失禁管理のために使用しない。
4. カテーテル留置中は、CAUTI 防止のために尿道口周囲を定期的に消毒する。

【問題 14】検体採取方法や保存方法について正しいものはどれか。

- a. 便培養検体を採取後直ちに提出できない場合は、冷蔵保存しておく。
- b. 髄液検体を採取後直ちに提出できない場合は、冷蔵保存しておく。
- c. 喀痰検査は、早朝起床時に、含嗽を行う前に採取することが望ましい。
- d. 血液培養検査を行う場合、2セット以上採取することが望ましい。

1. a, b

2. a, d

3. b, c

4. c, d

【問題 15】 洗浄・消毒・滅菌について正しいものはどれか。

1. HBV 抗原陽性の患者の創処置に使用したセッションは、洗浄後次亜塩素酸ナトリウムによる消毒をしたのちに滅菌処理しなければならない。
2. 消毒とは細菌芽胞を除くすべての、または多くの病原体を殺滅することであり、できるだけ消毒薬の濃度を濃くした方がよい。
3. 一般的にエンベロープを持つウイルスは消毒薬抵抗性が高い。
4. インプラント（生体植え込み器具）を滅菌する場合、生物学的インジケータ（BI）を毎回使用し、陰性結果を確認後に払い出す。

【問題 16】 「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル 令和4年 6月」に記載されている内容について、正しいものはどれか。

- a. 液状・泥状の感染性廃棄物容器には黄色のバイオハザードマークを表示する。
- b. 医療現場から出た使用済み紙オムツは血液付着の有無に関わらずすべて感染性廃棄物として廃棄する必要がある。
- c. 「感染性廃棄物」の具体的な判断にあたっては、形状の観点、排出場所の観点、感染症の種類観点によるものとする。
- d. 感染性廃棄物の保管場所は、感染性廃棄物の所在を表示し、他の廃棄物と区別して保管しなければならない。

1. a, b                      2. a, d                      3. b, c                      4. c, d

【問題 17】 「消化器内視鏡の感染制御に関するマルチソサエティ実践ガイド 改訂版 2013」に記載されている内容について、正しいものはどれか。

- a. 内視鏡の消毒には、次亜塩素酸ナトリウムなどの中水準消毒薬を使用する。
- b. 内視鏡検査室と洗浄室は独立して設置し、レイアウトはできる限り動線を短く設定する方がよい。
- c. スコープ自動洗浄・消毒装置を使用する場合でも、その前に内腔のブラッシングなどの手作業での洗浄を行う。
- d. スコープは送気・送水ボタン、吸引ボタン、鉗子栓などを装着して保管庫に保管する。

1. a, b                      2. a, d                      3. b, c                      4. c, d

【問題 18】 カルバペネム耐性腸内細菌（CRE）に関する記述で誤っているものはどれか。

1. CREは広域抗菌薬を長期にわたって使用しているICU患者や術後患者において、感染症の原因菌となりやすい。
2. メロペネムなどのカルバペネム系薬剤及び広域β-ラクタム剤に対して耐性を示す腸内細菌科細菌による感染症である。
3. カルバペネム耐性遺伝子がプラスミドの伝達により、複数の菌種に拡散していく特徴を持つ。
4. 5類感染症定点報告の感染症であり、7日以内の届け出をしなければならない。

【問題 19】 流行性角結膜炎に関する説明として、誤っているものはどれか。

1. アデノウイルスによる感染である。
2. 感染経路は接触感染である。
3. 症状出現2日後からウイルスの排出がみられる。
4. 潜伏期間は、1～2週間である。

【問題 20】 医療関連感染サーベイランスに関する記述で正しいものはどれか。

- a. 包括的サーベイランスは、施設で発生するあらゆる医療関連感染を対象とする。
- b. サーベイランスデータを他の施設とベンチマークする場合には、同じ疾患定義を用いていることが条件である。
- c. サーベイランスを効率的に行うために、データ収集および判定を実施部署のスタッフに行ってもらおう。
- d. サーベイランス対象部署に効果的に介入するためには、能動的サーベイランスより受動的サーベイランスを行うことが推奨される。

1. a, b

2. a, d

3. b, c

4. c, d

【問題 21】以下の文章を読み、設問 1～3 に答えなさい。

あなたは、500床の総合病院の感染管理担当看護師である。救急外来より、血液曝露の報告を受けた。吐血で救急搬送された肝硬変の患者の対応をしていたところ、血液の混入した吐物がM看護師の目に入ってしまった。患者はHBs抗原陽性、HCV抗体陰性、HIV抗体陰性であった。あなたは直ちに救急外来に出向き、M看護師にインタビューし、以下を確認した。

- ・ M看護師は、HBs抗体価8mlU/ml、HCV抗体陰性である。
- ・ M看護師は血液曝露時、手袋、エプロンは装着していたが、ゴーグルは装着していなかった。

【設問 1】M看護師に対する曝露後の対応として、正しいものはどれか。

- M看護師を業務から離脱させ、流水による目の洗浄を行う。
- M看護師への感染のリスクを知るために、患者のHBe抗原検査を実施する。
- 患者はHBs抗原陽性であるため、M看護師に48時間以内にインターフェロンを投与する。
- M看護師はワクチン接種歴があるため、追加のワクチン接種は不要である。

1. a, b                      2. a, d                      3. b, c                      4. c, d

【設問 2】針刺し・血液曝露時の感染リスクについて、誤っているものはどれか。

- 針刺しをした際の器材別の感染リスクは、縫合針より中空針の方が高い。
- 粘膜への曝露の場合、感染リスクは低いため、針刺し・血液曝露の報告対象とはならない。
- 感染症別の感染リスクは HCV>HBV>HIV の順に高くなる。
- 血液曝露者のHBs抗体価が基準値を満たしていれば、HBs抗原陽性の血液に曝露しても特別な処置は必要ない。

1. a, b                      2. a, d                      3. b, c                      4. c, d

【設問3】B型肝炎ワクチン接種について、正しいものはどれか。

- a. ワクチン未接種で、HBs 抗原(-)かつ HBs 抗体価が 10mIU/ml 未満の場合はワクチンプログラムを開始する。
- b. B型肝炎ワクチンは生ワクチンである。
- c. B型肝炎ワクチンを1回接種し抗体価を調べたところ、HBs 抗体価が 100mIU/ml であったため2回目以降のワクチン接種は不要とした。
- d. ワクチンプログラムを2クール（1クール3回の接種）しても、基準の抗体価を獲得できなかったスタッフはワクチン不応者として血液体液曝露時には厳重な対応を行う。

1. a, b

2. a, d

3. b, c

4. c, d

【問題 22】以下の文章を読み、設問 1～4 に答えなさい。

あなたは、N 病院の感染管理担当看護師である。2015 年 4 月から ICU で中心ライン関連血流感染（CLABSI）サーベイランスを行なっているが、2020 年 4 月から 2021 年 3 月の CLABSI 発生率は、適切な皮膚消毒やマキシマルバリアプリコーションなどを包括的に実施しているにも関わらず減少しなかったため、2021 年 4 月にクロルヘキシジン含有スポンジドレッシングを導入し、2022 年 3 月までのサーベイランス結果を分析し、評価することにした。

2020 年度と 2021 年度の CLABSI サーベイランス結果は下表のとおりである。

	2020年度	2021年度
中心ライン関連血流感染症例数	9件	4件
入院患者数	300人	400人
延べ中心ライン使用日数	1500日	1600日
延べ入院患者日数	1800日	2000日

【設問 1】N病院ICUの2020年度の中心ライン関連血流感染率で正しいものはどれか。

1. 5.0 （対1000中心ライン使用日数）
2. 30 （対1000中心ライン使用日数）
3. 6.0 （対1000中心ライン使用日数）
4. 9.0 （対1000中心ライン使用日数）

【設問 2】N病院ICUの2021年度の中心ライン使用比で正しいものはどれか。

1. 0.01
2. 0.25
3. 0.80
4. 0.83

【設問3】2020年度と2021年度の感染率の比較を行なう上で、適切な検定法はどれか。

1. 対応のあるサンプルのt検定
2. 対応のないサンプルのt検定
3. マンホイットニーU検定
4. カイ二乗検定

【設問4】2021年度の感染率は2020年度と比較して約60%以上の減少率を認め、検定を行なった結果は、 $p=0.13$ でした。有意水準を0.05としたときの結果の解釈として正しいものはどれか。

1. 感染率の差が0.13であり、クロルヘキシジン含有スポンジドレッシングを使用することによって感染率が低減できることが証明された。
2. 統計学的な有意差は認められなかったが、感染率の減少率が高かったことからクロルヘキシジン含有スポンジドレッシングの使用は臨床的に効果があった。
3. 統計学的な有意差は認められなかったため、クロルヘキシジン含有スポンジドレッシングは使用すべきではないことが証明された。
4. 統計学的に有意差を認めたため、クロルヘキシジン含有スポンジドレッシングの使用は効果があることが証明された。

【問題 23】以下の文章を読み、設問 1～3 に答えなさい。

あなたはO市立病院の感染管理担当看護師である。12月3日併設する介護療養型施設の看護師から、施設内に嘔吐や下痢のある入所者やスタッフが数名発生していると連絡がありました。あなたが情報を集めたところ、以下のことが分かりました。

- ・ 12月1日に101号4床室に入所しているP氏が、朝食後に自室の洗面所で嘔吐し、その後、下痢も認めた。
- ・ 12月2日の朝食後には、P氏と同室のQ氏とR氏に嘔吐と下痢、発熱が出現した。P氏、Q氏、R氏にノロウイルス迅速診断検査を実施したところ、P氏とQ氏は抗原陽性であった。R氏は陰性であった。施設では、この結果を受けてP氏とQ氏を個室に移動した。
- ・ P氏の嘔吐と下痢の症状は、12月2日夕方に消失した。
- ・ 101号室の残り1人の同室者は12月3日の時点で消化器症状は見られていない。
- ・ 12月3日時点で2名のスタッフに嘔吐と下痢、発熱の症状が出ている。

【設問 1】この施設で行う感染対策について、正しいものはどれか。

- 下痢と嘔吐を認めるスタッフ2名は、症状消失後48時間まで就業停止とする。
- 施設内の有症状者への対応に、接触感染予防策を開始する。
- R氏は、P氏、Q氏以外の残り1名の同室者ととともに101号室で経過を観察する。
- P氏には、ノロウイルス迅速診断検査を3回連続して実施し、すべての検査結果が陰性であることを確認した後に隔離解除する。

1. a, b                  2. a, d                  3. b, c                  4. c, d

【設問 2】この施設で行う環境清掃、消毒について、正しいものはどれか。

- 利用者が使用した食器は、適切に熱水処理を行えば、消毒薬への浸漬は必要ない。
- トイレ周辺など高頻度接触環境表面を定期的に0.02%（200ppm）の次亜塩素酸ナトリウム液で清拭消毒する。
- 嘔吐物処理時は、必ずN95マスク、手袋、エプロンを着用する。
- 嘔吐物の飛散による感染を防ぐため、高性能空気清浄機を導入しなければならない。

1. a, b                  2. a, d                  3. b, c                  4. c, d

【設問3】あなたは、この施設のスタッフにノロウイルスについて説明することになった。説明する内容として、誤っているものはどれか。

- a. ノロウイルスに効果のある抗ウイルス薬はない。
- b. ノロウイルス感染症の特徴として、白色水様便を高頻度で認める。
- c. ノロウイルスに感染しても、無症状の場合はウイルスを排泄することはない。
- d. ノロウイルスは、ウイルス100個程度取り込むことで、感染が成立する

1. a, b

2. a, d

3. b, c

4. c, d

【問題 24】以下の文章を読み、設問 1～4 に答えなさい。

あなたは、S病院の感染管理看護師です。12月1日呼吸器内科病棟から「昨日搬送され、入院となった患者T氏が結核を発病している可能性がある」と連絡があり、以下の状況を確認しました。

- ・ 搬送時に撮影したT氏の胸部レントゲン上、左肺上葉に異常陰影があった。
- ・ 搬送時対応したのは、医師1名、看護師2名で全員サージカルマスクは着用していた。
- ・ 現在は、救命救急センターの個室で酸素投与を行っている。
- ・ 本日、胸部CT検査を行う予定である。
- ・ 入院時に提出した喀痰塗抹検査の結果、抗酸菌陽性であった。核酸増幅検査（PCR法）の結果は12月3日に判明する予定である。
- ・ T氏は、ここ1か月咳が続いていたそうであるが、受診はしていなかった。

【設問 1】この時点の判断で、正しいものはどれか。

1. 喀痰塗抹検査で抗酸菌陽性であることから、T氏は結核菌を排菌していると判断される。
2. 肺結核であるため直ちに保健所に届け出、T氏を結核入院施設へ転院させる。
3. 非結核性抗酸菌症も考えられるので、PCR検査の結果が出るまで特別な対応はしないでよい。
4. 肺結核が疑われるのでT氏を空気感染隔離室へ転室する。

【設問 2】救命救急センターのスタッフに対して指導する内容で正しいものはどれか。

- a. T氏が使用した処置室内の壁や床は、結核菌に有効な消毒薬を用いて消毒する。
- b. T氏の胸部CT検査の順番は最後とし、T氏にはサージカルマスクを着用して検査室に向かい出向いてもらう。
- c. N95マスク着用後は、ユーザーシールチェックを実施する。
- d. T氏のケアに用いる聴診器や血圧計は必ず患者専用とする。

1. a, b

2. a, d

3. b, c

4. c, d

【設問3】12月3日に核酸増幅検査の結果が結核菌陽性と判明したため、「感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引き（改訂第5版）」に従い、T氏との接触者に対して検診を行うことになりました。接触者検診に関する説明で正しいものはどれか。

- a. 搬送時対応した3名は、濃厚接触者と定義される。
- b. 初発患者の「低感染性」、「高感染性」を問わず、接触者検診の優先度を設定する。
- c. 接触者には、翌年の1月初旬にインターフェロン $\gamma$ 遊離試験（Interferon-gamma release assay: IGRA）を実施する。
- d. T氏の感染性期間の始期は、2022年12月1日の3か月前である。

1. a, b

2. a, d

3. b, c

4. c, d

【設問4】結核の活動性の有無を診断するための検査法で正しいものはどれか。

- 1. インターフェロン $\gamma$ 遊離試験（IGRA）
- 2. ツベルクリン反応検査
- 3. グラム染色
- 4. 抗酸菌培養検査

【問題 25】以下の文章を読み、設問 1～2 に答えなさい。

あなたは、U病院に勤務する感染管理看護師です。2017年12月1日に病棟師長から看護師Vが麻疹を発症して入院していると報告がありました。看護師Vについて、状況を確認したところ以下のことがわかりました。

11月14日～20日 インドへ旅行に行っていた。

11月28日 微熱と咳、鼻水が出現したが、日勤勤務に出ていた。

11月29日 38℃の発熱、自宅療養。

11月30日 40℃まで熱が上がり、発疹が出現したため、救急外来を受診し、診察医が麻疹の可能性を示唆し入院となった。以下の状況を確認しました。

12月1日 救急外来で実施した検査結果は麻疹IgM抗体、IgG抗体共に陰性であった。看護師Vは幼少期にMR（麻疹・風疹混合）ワクチンを1回のみ接種していた。

【設問 1】看護師 V を診察した医師が、11 月 30 日に行う必要がある対応で誤っているものはどれか。

- a. 看護師 V を直ちに陰圧室に隔離する。
- b. 看護師 V に対して、MR ワクチンを接種する。
- c. 麻疹の治療のために、アシクロビル投与を開始する。
- d. 直ちに保健所に麻疹の発生届を提出する。

1. a, b            2. a, d            3. b, c            4. c, d

【設問 2】12月1日に得られた情報からの判断として、正しいものはどれか。

- 1. 看護師Vは、発疹出現から7日目の12月7日まで就業停止とする。
- 2. 11月30日を看護師Vの麻疹発症日と判断し、救急外来受診時からの接触者の麻疹抗体価やワクチン接種歴を確認する。
- 3. 11月28日以降に接触した医療従事者にすべてに対し、麻疹ワクチン接種する。
- 4. 看護師Vの検査結果から、麻疹を発症していない可能性が高いと考えられるため、接触者への対応は必要ない。

【問題 26】以下の文章を読み、設問 1～4 に答えなさい。

あなたは W 病院の感染管理担当看護師です。1 月 12 日に X 病棟の看護師長より「1 月 10 日に 4 人部屋に入院した患者 Y さんがインフルエンザを発症した。感染対策について相談したい。」との連絡がありました。あなたは、病棟に向き看護師長から下記の情報を得ました。

- ・ 1 月 11 日に、患者 Y さんの 8 歳の長男が高熱を出して病院でインフルエンザ A と診断されていた。
- ・ 患者 Y さんは 1 月 11 日の昼頃より発熱がみられた。夕方インフルエンザの検査をしたところ陰性であったが、1 月 12 日の朝、再検したところインフルエンザ A 陽性であった。
- ・ 患者 Y さんは、入院時より同室の 3 人とよく会話をしていた。
- ・ 同室の 3 人はいずれも糖尿病教育入院で、ADL は自立している。

【設問 1】インフルエンザに関する記述で誤っているものはどれか。

- インフルエンザウイルスの感染経路は飛沫感染であるが、接触感染への注意も必要である。
- 季節性インフルエンザは 5 類感染症の定点報告疾患であるため、全ての医療機関において届出の必要はない。
- 鳥インフルエンザ(H5N1)は感染症法の指定感染症である。
- インフルエンザウイルスはアルコールに抵抗性があるため、患者の高頻度接触表面は、次亜塩素酸ナトリウムによる清拭消毒を行う。

1. a, b            2. a, d            3. b, c            4. c, d

【設問 2】X 病棟において実施すべき対応として、正しいものはどれか。

- 患者 Y さんを個室に移動し、同室の 3 人の患者はそのままの部屋で、インフルエンザの感染徴候を観察する。
- 患者 Y さんを個室に移動し、飛沫予防策を適応する。Y さんのいた 4 人部屋の病床は、アルコールで清拭消毒して、他の患者を入れる。
- 患者 Y さんをカーテン隔離とし、飛沫予防策を適応する。同室の 3 人はできるだけ空いている他の部屋に移動させる。
- 患者 Y さんをカーテン隔離とし、同室者は部屋移動せず、潜伏期間中は病室内で過ごしていただくよう指導する。

1. a, b            2. a, d            3. b, c            4. c, d

【設問3】Y病院では学校保健安全法をもとにマニュアルを作成しているが、患者Yさんの隔離の解除について、正しいものはどれか。

1. 解熱後2日経過したら解除とする。
2. 解熱後2日かつ発症から5日経過した時点で解除とする。
3. 解熱直後に隔離は解除とする。
4. 発症後5日経過したら、隔離は解除とする。

【設問4】インフルエンザ流行時の感染対策として、誤っているものはどれか。

1. 手指衛生をはじめとする標準予防策と咳エチケットの徹底をする。
2. インフルエンザ流行期には、入院時のインフルエンザ症状のサーベイランスを行う。
3. 高水準消毒薬による環境消毒を徹底する。
4. インフルエンザワクチンの接種を推進する。